

第 1 号議案：2019 年度事業報告及び収支決算について

1. 2019 年度事業報告（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

(1) 会議

ア. 理事会及び総会の開催（5 月 17 日 東京文化財研究所）

(2) 主催事業（ICOM 京都大会関連を除く）

ア. 「国際博物館の日」記念事業の実施

全国の 197 館で約 200 件の教育普及事業、入館料減免、記念品贈呈などの事業を実施された。

イ. 「国際博物館の日」記念特別講演の開催

5 月 17 日に東京文化財研究所において、青柳正規山梨県立美術館長を講師に迎え、「文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へ」をテーマに特別講演会を開催した。
（文化芸術振興費補助金対象事業）

ウ. 「国際博物館の日」記念国際シンポジウム

5 月 26 日に京都国立博物館において、ダイアナ・パデュー ICOM 執行役員を基調講演者として招き、国際シンポジウムを開催した。
（文化芸術振興費補助金対象事業）

(3) 諸活動

ア. アメリカ博物館協会（AAM）年次大会参加・発表（5 月 20 日～23 日 ニューオリンズ）

参加者：マリサ・リンネ、川田萌子

（文化芸術振興費補助金対象事業）

イ. 第 18 回 Best in Heritage 参加・発表（9 月 26 日～28 日 ドブロブニク・

クロアチア）

参加者：ふじのくに地球環境史ミュージアム安田喜憲館長ほか 1 名

（文化芸術振興費補助金対象事業）

(4) ICOM 京都大会関係

ア. 第 4 回運営委員会学術・研究チーム会議（5 月 7 日 黒田記念館）

イ. 第 6 回組織委員会（7 月 19 日 平安神宮）

ウ. ICOM 京都大会 (9月1日～7日 京都国際会館ほか)

国立京都国際会館アネックスホールに、丸一興業 bolda 事業部の協賛を得て、ICOM 日本委員会と日本の博物館紹介コーナーを開設した。

エ. ICOM 国際委員会年次大会

ICOM 京都大会にあわせて、日本国内各地で会議や見学会を開催。日本人役員が 13名となった。

(文化芸術振興費補助金対象事業)

ウ. 第4回京都推進委員会 (12月16日 京都国立博物館) 開催

エ. 記念シンポジウム「博物館の未来」(2月11日 京都国立博物館)

基調講演とパネルディスカッションによって、ICOM 京都大会を振り返るとともに 今後を展望した。

(5) 会員拡充・広報

ア. 個人会員数が431名から518名に87名増加。

イ. 団体会員が46団体から50団体に4団体増加。

ウ. これまでの ICOM 大会報告書 (日本委員会版) などをデータ化して公開するとともに、公式ホームページの刷新に着手。

エ. 入会促進リーフレットの作成。

(文化芸術振興費補助金対象事業)

2. 2019年度収支決算 (案)

(2019年4月1日～2020年3月31日)

<収入の部>

単位(円)

科 目	2019年度予算額	2019年度決算額	備 考
会費	9,980,000	11,036,300	内入会金 675,000 円
雑収入	50	107	預金利息
前期繰越金	1,888,578	1,888,578	
計	11,868,628	12,924,985	

<支出の部>

単位(円)

科 目	2019年度予算額	2019年度決算額	備 考
会費	8,000,000	8,570,315	490人*、50団体
負担金	20,000	20,000	日本ユネスコ協会連盟会費
事業費**	500,000	84,565	HP更新、資料翻訳
事務費	1,300,000	716,296	
会議費	50,000	37,559	
通信費	150,000	136,269	
消耗品費	150,000	100,536	
印刷製本費**	300,000	0	
旅費	200,000	17,770	
賃金	400,000	400,000	
雑費	50,000	24,162	
予備費	200,000	0	
次期繰越金	1,848,628	3,533,809	
計	11,868,628	12,924,985	

* 2020年1月～3月の新入会員は2020年度より会費納入のため含まれず

** ICOM 京都大会へのブース出展にかかる協賛獲得および文化庁補助金の活用による支出削減

以上

第 2 号議案 2020 年度事業計画ならびに収支予算について

1. 2020 年度事業計画（案）

(1) 会議

ア. 理事会及び総会の開催

5 月中

(新型コロナウイルス感染予防対策として、書面による開催を予定)

イ. その他必要に応じ諸会議の開催

(2) 諸活動

ア. 日本委員会の活性化のためのワーキンググループ創設

ICOM 日本委員会の活性化に向けた議論を進めるとともに、ICOM 京都大会で培った海外専門家との関係強化、日本の博物館情報の発信等を継続的に行うための体制を整備する。

イ. ICOM 京都大会の実績を活かした、ICOM 国際委員会役員である会員を中心とした国際委員会への積極的参画

委託事業/補助金等を活用し、13 名に増加した日本委員会会員である国際委員会役員を中心とする会員の国際会議等への参加を支援する。

ウ. ICOM 京都 2019 のレガシー事業等の検討・実施

京都大会の大会決議で採択された ICOM におけるアジア重視の取組みや、新たに作られた災害対応に関する国際委員会等の活動への参画、京都大会で議論された重要な課題に関するシンポジウム等を企画・開催し、今後に向けた継続的なレガシー事業の展開を考え、可能な事業から実施する。

エ. 「国際博物館の日」記念事業の実施

各館の記念事業実施を奨励し、ポスターを作成して広く配付する。

オ. 公式ホームページの刷新、コンテンツ強化による情報発信力の強化

最新情報の提供、資料のアーカイブ化などを進める。

カ. Best in Heritage への日本博物館協会賞受賞施設の推薦

(4) その他

ア. 会員数増大に対応した、新しい活動方針の検討

2. 2020年度収支予算（案）

（2020年4月1日～2021年3月31日）

<収入の部>

単位(円)

科 目	2020年度予算額(案)	2019年度予算額	備 考
会費	11,500,000	9,980,000	対2019年度実績5%増
雑収入	100	50	預金利息等
前期繰越金	3,533,809	1,888,578	
計	15,033,909	11,868,628	

<支出の部>

単位(円)

科 目	2020年度予算額(案)	2019年度予算額	備 考
ICOM 会費	9,000,000	8,000,000	対2018年実績5%増
負担金	20,000	20,000	日本ユネスコ協会連盟会費
事業費 *	3,300,000	500,000	
事務費	1,450,000	1,300,000	
会議費	100,000	50,000	
通信費	200,000	150,000	
消耗品費	150,000	150,000	
印刷製本費	250,000	300,000	
旅費	300,000	200,000	
賃金	400,000	400,000	
雑費	50,000	50,000	
予備費	200,000	200,000	
次期繰越金	1,063,909	1,848,628	
計	15,033,909	11,868,628	

* 事業費内訳

- ・ 事業活性化（ワーキンググループ創設）：300,000 円
- ・ ICOM 京都2019のレガシー事業・シンポジウム等：2,000,000 円
- ・ ホームページ刷新・強化（委託費を含む）：1,000,000 円

第 3 号議案：ICOM 日本委員会の新役員候補の選出について

ICOM 日本委員会事務局

2010 年の ICOM 上海大会終了後から検討・準備を重ねてきた日本での ICOM 大会開催は、概ね計画どおり成功裏に終了した。この ICOM 京都大会の成果を一過性のものとせず、日本の博物館の振興に向け、より一層の国際化を推進するためには、その中心的担い手である ICOM 日本委員会の組織の充実が不可欠である。

一方、ICOM 全体としても、国際社会に共通の博物館課題の解決に向けて、各国内委員会の果たすべき役割は重要で、日本としても京都大会の開催国として、今後の ICOM 全体の取組に対しても積極的な参画が求められている。

こうした状況を踏まえ、2020 年度の ICOM 日本委員会の役員改選は以下の方針の下で実施することとしたい。

- (1) 役員任期は、ICOM 本部に準拠し、原則 1 期 3 年、連続で 2 期 6 年までとする。(ただし、委員長、副委員長及び監事については、別途の任期とする。)
- (2) ICOM 日本委員会の事務局は日本博物館協会であることから、日本博物館協会会長を参与 (Ex officio) として役員に加えることとし、規約改正を行う。
- (3) 役員は、ICOM 本部及び国内での影響力を勘案しつつ、国際委員会等の役員に選出されたメンバーを含め、現委員長及び副委員長が選出し、現理事会において候補者名簿を決定の上、総会において承認を得る。
- (4) 新役員の選出に当たっては、研究機関を含む館種やジェンダー・バランスにも考慮する。
- (5) 総会で承認された新役員の互選により、委員長、副委員長を選任するとともに、委員長が監事を指名し、結果を全会員に通知する。
- (6) 新たな理事会の下に若手・中堅を中心とするワーキング・チームを設け、日本博物館協会と連携して将来に向けた組織基盤の強化と ICOM 日本委員会の活動の充実に努める。

以上

ICOM 日本委員会 2020～2022 年度役員候補（案）

理 事	青柳 正規	山梨県立美術館長
	足羽與志子	一橋大学大学院教授
	逢坂恵理子	国立新美術館長
	井上 洋一	東京国立博物館副館長
	小川 義和	国立科学博物館 調整役
	片岡 真実	森美術館長
	栗原 祐司	京都国立博物館副館長
	佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館長
	島谷 弘幸	九州国立博物館長
	東 自由里	京都外国語大学教授
	福田 豊	恩賜上野動物園長
	福野 明子	国際基督教大学湯浅八郎記念館博物館長代理
	柳原 正樹	京都国立近代美術館長
	山極 壽一	京都大学総長
	吉田 憲司	国立民族学博物館長
吉見 俊哉	東京大学大学院教授	
参 与	銭谷 眞美	日本博物館協会長
監 事	未 定	
	未 定	
顧 問	青木 保	政策研究大学院大学政策研究院シニアフェロー
	五十嵐耕一	元日本博物館協会専務理事
	佐々木正峰	文化財建造物保存技術協会理事長
	林田 英樹	日本工芸会理事長

*本リスト記載の候補者の内、理事については、総会で承認を得た上で、本人の承諾とともに ICOM 会員となることを確認する手続きを経て次期役員として確定する。

(参考)

ICOM 日本委員会 2017～2019 年度役員

委員 長	青木 保	政策研究大学院大学政策研究院シニアフェロー
副委員 長	佐々木丞平	京都国立博物館長
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	林 良博	国立科学博物館長
理 事	足羽與志子	一橋大学大学院教授
	神庭 信幸	東京国立博物館特任研究員
	栗原 祐司	京都国立博物館副館長
	坂村 健	東洋大学教授
	菅谷 博	ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉館長
	内藤 正人	慶應義塾大学アート・センター所長
	南條 史生	森美術館特別顧問
	蓑 豊	兵庫県立美術館館長
	柳原 正樹	京都国立近代美術館長
監 事	河野 哲郎	東京国立博物館名誉館員
	三浦 定俊	文化財虫害研究所理事長
顧 問	五十嵐耕一	元日本博物館協会専務理事
	近藤 信司	国立科学博物館顧問
	佐々木正峰	文化財建造物保存技術協会理事長
	林田 英樹	日本工芸会理事長

第4号議案：ICOM日本委員会規約改正（案）について（参与の設置）

第21条に参与に関する規定（下線部）を加える。

（顧問・名誉会員・参与）

第21条 日本委員会に顧問および名誉会員をおくことができる。

顧問は役員としてとくに功勞のあつた者を理事会に諮って委員長が委嘱する。

名誉会員は会員として永く貢献した者を理事会において推薦決定する。

顧問は理事会の要請により日本委員会の会議に出席して意見を述べることができる。

第2項 日本委員会に参与をおく。

参与は職をもって公益財団法人日本博物館協会会長を充てる。